

第26回高知県四万十川流域保全振興委員会 議決結果（書面議決）

議題（1） 住民意識調査（令和4年度実施）内容について

意見なし 5

意見あり 9

- ・調査対象、無作為抽出を見直すことは可能か。例えば、上中下流域ごと、年代別などであらかじめ分けて集計するなど。集計結果を分析・読み取る時に流域ごと、年代ごとの方が分けやすいのではないか。
- ・調査結果を役立てるために実行に移した施策があるか。四万十川財団、四万十川条例の認知度は低い、認知度を上げるための方法はあるか。流域は高齢化が進んでおり、高齢者のインターネットを利用率が低い、メディアでの周知に取り組む必要がある。また、若い人たちは逆にメディア離れが進んでいるので「四万十川財団」のYouTube番組を周知することはできないか。生活の満足度は概ね高いと言えるが、生活の厳しさも垣間見える。これは行政や社会が変わらないと難しい。今後のアンケートではIターン、Uターンの項目を設けるべきでは。昔から地元で頑張っている人に加え、外から来た人の力も必要になる。
- ・「この場所に住み続けたいか」の質問は「あなたの家（空家）を維持する人がいるか」としてはどうか。高齢化や人口流出に関して、より直接的な質問だと考える。
- ・四万十川財団の認知度調査は納得。
- ・財団の認知度について、財団の「清流通信」は多くの人に読んでほしい。そういう点からも、財団の情報を登録との設問に賛成。また、財団への要望について記述スペースがあれば良いのではないか。条例の認知度について、誤った理解をしている人や否定的に捉えている人もいる。条例をどのように評価しているかを記述スペースを設けてはどうか。
- ・住民意識調査にはSNSでの質問などを投げて簡単に答えられるようにしてはどうか。四万十川保全については、流域の5市町で講演会やシンポなどで発信するとともに、全体で学ぶ機会が必要。四万十川財団や四万十川条例に関しても普段は関係ない人が多い。理解を深めるには講演会やFacebookなどでの発信が必要。

- 質問項目は満足している。
- 質問票に四万十川財団のメルマガに登録を促す工夫をしてはどうか。また、「あゆ王国 高知振興ビジョン」が策定されたことから、流域住民とアユとの関わりなどについての質問の追加を検討できないか。
- 前回の調査で四万十川との関わりや環境を守る行動や意欲の低下など、住民の四万十川への関心や関わりが弱まっている。回答者の高齢化が一因かもしれないが、本委員会でも議論を深める必要がある。質問項目の追加は変化を住民目線で追う意味で意義がある。また、インタビュー調査を行うことは高齢化の影響を補正するうえでも重要。